



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/6 (月)	+ 800	+ 12,200	+ 13,000	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 200 社債等買入 ▲ 100	国債買入 + 10,700	米: レーバーデー (株式・債券市場休場)
9/7 (火)	+ 1,000	+ 2,000	+ 3,000				日: 景気先行CI指数 (7月) 欧: ユーロ圏GDP (2Q)
9/8 (水)	+ 1,000	▲ 14,000	▲ 13,000	国債発行 (30Y)			日: GDP (2Q) 米: ページブック
9/9 (木)	トン	+ 3,000	+ 3,000				欧: ECB政策金利公表、ラガルド総裁会見
9/10 (金)	トン	▲ 31,000	▲ 31,000	国債発行 (5Y) 国庫短期証券 発行・償還 (6M)			米: PPI (8月)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初537兆7,400億円から始まった。その後は9月1日の2年利付国債の発行や2日の税保険揚げ等により、533兆8,100億円まで減少した。週末の3日には10年利付国債の発行もあり、530兆900億円まで減少し、越週した。

無担保コールON物加重平均金利は、週初、前営業日比+0.001%の△0.036%から始まった。9月に入ってからはいっどサイドが調達に積極的な姿勢を見せ、同金利は上昇基調にあり、1日には△0.032%、2日には△0.026%まで上昇した。週末3日積み3日もビッドサイドの調達ニーズは強く、△0.020%まで上昇し、越週した。

ターム物は、8月積み期内エンドの1W～2W物を中心に、主に△0.030%～△0.015%の水準で出合いが見られた。来週の主な予定は、国内で7日に景気先行CI指数(7月)の公表、8日にGDP (2Q) の公表などがあり、海外では9日にECB政策金利の公表や、10日に米PPI (8月) の公表などが予定されている。

〔無担保コールレート〕

	予想レンジ (%)
O/N	△0.070 ～ 0.001
1M	△0.050 ～ 0.020
2M	△0.010 ～ 0.050
3M	0.000 ～ 0.100
6M	0.000 ～ 0.130

〔オープン市場〕

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ～ 0.000
CP 3M	△0.080 ～ 0.000

＜レボ＞

足許GC取引は週初△0.085%近辺の出合いから始まり、週央まで△0.09%～△0.08%の水準で推移した。その後、短国3Mの入札日となる3日の取引では、△0.075%～△0.065%まで上昇し越週した。SC取引では2年409～428回債、5年137～148回債、10年333～363回債、20年163～177回債、30年69～71回債、40年9～14回債などに引合いが多く見られた。

＜C P＞

今週の入札発行総額は約3,700億円で、週間償還額(約1,800億円)を上回った。石油製品業や鉄鋼業等の大型案件が実施されたが、償還も少なく、落ち着いたマーケットとなった。発行残高は先週末の25兆2,708億円から、2日時点で25兆581億円に減少した。発行レートは、大型発行案件や期内物については浅いマイナスレートでの出合いとなった。

来週の週間償還額は、約2,600億円程度となっている。発行市場は、5・10日発行も予定されるが、中間期末を睨んで期日償還が多くなり、今週同様落ち着いたマーケットが予想される。発行レートは、期内物については、浅いマイナスから0%近辺の出合いが中心と思われるが、日銀オペ等の対象銘柄や期越物等では、強いマイナスレートでの出合いを予想する。10日に、CP等買入オペが5,000億円で実施される予定となっている。

＜TDB＞

9月3日の3M1020回債(2021年12月6日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1142% (前回債△0.1162%)、平均落札利回り△0.1194% (前回債△0.1202%) となった。来週は9日に6M、10日に3Mの入札がある。